



達人の旅指南 ②

フリーライター 加藤 隆悦

みちのくココロとカラダの癒し旅

◆ホテル志戸平◆

庶民に愛され続けてきた温泉郷

岩手県の花巻市周辺は、温泉の宝庫だ。北東北を代表する名湯秘湯が点在する。温泉ブーム以降は全国の温泉ファンにも知られるようになり、都会からも人が訪れるようになったが、元々は地元の庶民相手の湯治場だった。特に宮古、釜石、気仙沼といった三陸地方の漁師の保養温泉として長らく愛されてきた。

かつては東北本線の花巻駅から、花巻温泉や花巻南温泉郷に湯治客を運ぶ花巻電鉄という鉄道が走っていた。東北で最初に開業した電車鉄道だった。この界隈の温泉への人の往来が盛んだったことが偲ばれる。湯治客は、米味噌醤油の他、布団袋まで電車に積み込み、ひいきの温泉に足を運び、長い人では一カ月も逗留して一年分の骨休めをするのだ。

時代の流れで電車路線は昭和四十年代に廃止になったが、未だにレトロムード満点の一軒宿が点在するのは、二十一世紀を迎えた今になっても、近郷近在の庶民の保養温泉として深く愛され続けているという現実を物語っている。都会からの観光客が押し寄せる秋の観光シーズンは一巡すると、入れ替わりに三陸の漁師やその家族たちが保養にやってくる、ひとしきり賑やかな冬を迎えるのだ。

花巻は宮沢賢治ゆかりの地なので、ロビーに賢治の資料が展示してある。



東北新幹線新花巻駅前の「セロ弾きのゴーシュ」のレリーフ



志戸平温泉の由来が刻まれた石碑



花巻市内を流れる北上川



花巻電鉄の保存車両(花巻市材木町公園) 車体幅が極端に狭いことから「馬つら電車」の異名をとる花巻電鉄が、かつて湯治客を運んでいた





温泉好きにはたまらない宿

今回訪れた「ホテル志戸平」は、客室数百九十、収容千名超と、花巻南温泉郷の中でもトップクラスの規模を誇る大型近代温泉ホテル。

開湯以来の庶民の保養の場として親しまれてきた伝統を受け継ぎ、いたずらに豪華さや高級感を売り物にせず、普段着感覚でお客に心底からくつろいでもらおうという姿勢が感じられてなかなか好ましい。一度利用してファンになり、繰り返し訪れる馴染み客も多い。

この宿の最大の目玉は、圧倒的な風呂の多さ。無色透明の含食塩芒硝泉の湯が溢れる大浴場は、男性用の「天河の湯」と女性用の「日高見の湯」、それに混浴の「千人風呂」があり、それぞれに大浴槽と露天風呂がある。「天河の湯」と「日高見の湯」は午前三時から午前九時三十分までの間は男女が入れ替わるので、宿泊客は滞在中にすべての風呂を楽しむことができるわけだ。ジャグジーやサウナ、打たせ湯などの趣向もふんだんで、温泉好きにはまったく堪えられない。すべての風呂は、宿の背後を蛇行して流れる豊沢川に面している。せせらぎの音に包まれながらのひと風呂も、ひととき旅愁をかき立てる。

温泉を貸切にする贅沢

平成十三年にはこれに新しい名物が増えた。それが「貸切溪流風呂」。豊沢川の溪流に面して個室タイプの浴室が四室ある。利用は別料金となるが、家族やカップルでのんびりと温泉情緒を満喫できる醍醐味は何もの



浴衣は適応身長を明記したものが4サイズ用意されている



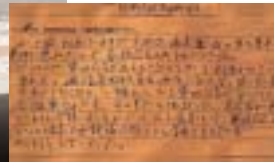
檜の湯舟のく貸切溪流風呂・まどの湯 参



陶製の湯舟がユニークなく貸切溪流風呂・まどの湯 参

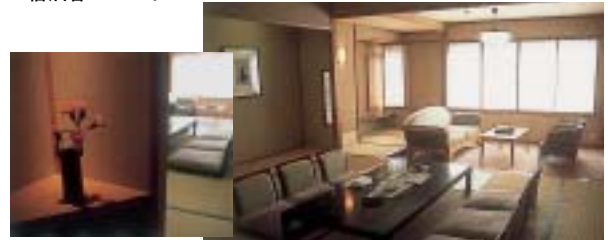


樽風呂に露天風呂もあるく貸切溪流風呂・黄金の湯



ロビーに掲示された宿泊客のコメント

お客にゆっくりくつろいでもらう狙いでこの宿には「客室係」がない





売店でお土産を買う宿泊客



朝食はバイキングスタイル



バイキングのキノコサラダ



バイキングの夕食会場。近隣の農家で採れたキュウリやトマトがまるごと並ぶ

館内にある『クーボ博士の研究室』は、宮沢賢治の作品に登場するクーボ博士のロボットが花巻の観光スポットを紹介する楽しいアトラクション



この夜の和食膳のデザートは“マンゴスチン”だった



この宿は旅人の琴線を知っている

このホテルは、そしてこのホテルのスタッフたちは、お客をもてなし、喜んでもらうのが楽しくて仕方ないのではないかと思います。宿の人は、「特別な料理はお出ししません」と言うのだが、夕食を「和食膳」と「バイキング」の中から選べるのは利用者本位のありがたいサービスだし、例えば僕が泊まった日の和食膳のデザートには、季節のフルーツとして見たこともない果物が並んでいた。「マンゴスチン」だった。そういう「ひねり技」をくり出すのが、このホテルのユニークなところだ。

ユニークといえば、バイキングの方でも、たとえば近隣の農家で採れた不揃いのキュウリがまるごとドンと山盛りになっている。味噌やマヨネーズをつけてかぶりつけてくださいというわけだ。

いかにも東北の宿らしい面白い趣向ではないか。年輩の人は昔を懐かしみ、子供たちは初めての食体験に感動することだろう。

いわゆる「客室係」がいないのも、この宿の特徴だ。ホテル志戸平では、これからの時代の温泉宿のあり方を模索していた時、今まで当たり前に行われていたサービスを、改めて必要なものと、そうでないものとに一つ一つフルイにかけていったという。そうして辿り着いた結論の一つが、「客室係」を省略してもサービス品質は維持できるし、コストを抑えた分を宿泊料金でお客にも還元できるというメリットだ。チェックインをすると、フロントスタッフがきびきびとそのまま部屋に案内してきてくれる。お客はくつろぎたくて旅に出てきているわけだから、あまりべたべたさえない接客姿勢は、かえって心地よい。

実は僕には、近々結婚記念日を迎える友人がいる。夫婦で記念の小旅行をしたいと言うので僕はホテル志戸平を薦めた。「予約の時に結婚記念日の旅行だと一言添えたらいいよ。そういうお客をなによりも歓迎してくれる宿なのだから。」

HOTEL SHIDOTAIRA



施設のご案内

- 収容人数 / 1,010名様
- 客室総数 190室 ● 第一級防災設備完備
- 駐車場完備
- 客室 < 花翔館、東風館、西陵館、南山館、北水館 >
- パンケット < コンベンションホール、大宴会場、宴会場、料亭、チャペル & パティオ >
- 大浴場 < 渓流大浴場 天河の湯、渓谷大浴場 高見の湯、混浴風呂、混浴露天風呂 >
- パブリック < アクアランド PALPAL (屋内外プール)、クラブ、カラオケルーム、ダンス & カラオケ、レストラン、和食処、サロン、ティールウンジ、あべじや広場 >

お一人様 1泊2食付

4名様以上一室 13,000円より (税別)



〒025-0244 岩手県花巻市湯口字志戸平
Tel.0198-25-2011(代) Fax.0198-25-2624

総合予約センター Tel.0198-25-2221
<http://www.shidotaira.co.jp>



館内は民芸調のイメージで統一されている



関の湯は近郊近在の日帰り利用も多い



山の湯・樽風呂



高い天井で開放感にあふれる山の湯



山の湯の露天風呂から「あじやら山」を眺望する

◆ 関の湯 ◆ 露天風呂が魅力のリニューアル温泉

津軽の代表的保養温泉碓ヶ関温泉で四十年の歴史を持つ大丸ホテルが、平成十三年十月に「あづましの宿 関の湯」としてリニューアルオープンした。

もともと大丸ホテルをはじめとした碓ヶ関温泉の湯は、ナトリウムカルシウム塩化物泉の癖のない泉質が人々に好まれて、近郊近在の人たちも、自宅に風呂があつてもわざわざ日帰りで温泉に入りに来るほど高い人気を誇っていた。そういった需要にこたえるためもあつて、今回のリニューアルオープンでは、入浴スペースを大幅に拡張した。

新設された大浴場を「山の湯」、従来からの大浴場を「里の湯」と名付け、時間帯で区切って男女別としている。「山の湯」は午後三時から午後十一時までが男性用、午後十一時から翌日午後三時までが女性用となる。「里の湯はその逆」

「山の湯」は天井が高く木造の柱や梁が木の香りを放つ趣のある浴場に仕上がっている。特に秀逸なのは、「山

の湯」の露天風呂。岩風呂と樽風呂の二種類の湯舟を楽しめるのだが、この「山の湯」が小高い丘の上に位置しているため、露天風呂に浸かりながら見下ろす温泉街の景観や、大鰐スキー場のある「あじやら山」を見渡すパノラマは、なかなか贅沢な気分を味わわせてくれる。

また、貸切風呂も三室新設された。青森特産のヒバ材で湯舟を誂えた浴室で、家族連れや友人同士で貸切で天然温泉入浴を楽しめるといふ趣向だ。気軽な小旅行の宿に、またドライブ途中の立ち寄り温泉として、ぜひ利用してみたい一軒だ。

(文写真||かとうりゅう||秋田市)

S E K I N O Y U



施設のご案内

- 客室23室 ●ロビー/お休み処
- お土産処 ●大広間 ●小広間 沓・式
- 和食処「花籠」 ●小あがり「花籠」いろは
- 大浴場「山の湯」露天風呂・檜風呂
- 大浴場「里の湯」 ●貸切風呂 沓・式・参

お一人様1泊2食付 3名様以上一室 8,000円より (税別)

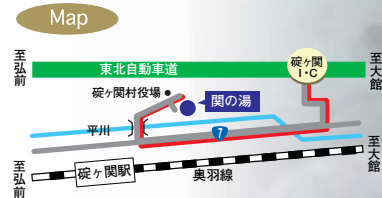
※2名様一室 9,000円より
※お部屋により料金が変わります

南津軽/碓ヶ関温泉



〒038-0101 青森県南津軽郡碓ヶ関温泉

Tel.0172-45-2244 Fax.0172-45-2245



山の湯・露天風呂